

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

昭和医科大学における転移性前立腺癌に対する治療の検討

1．研究の対象および研究対象期間

2014 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに昭和医科大学病院、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学江東豊洲病院において転移性前立腺癌と診断された患者さん。

2．研究目的・方法

近年、診断時に他臓器に転移を有する前立腺癌（転移性前立腺癌）に対する治療戦略は大きく進歩しています。従来のホルモン治療であるアンドロゲン除去療法に加え、抗悪性腫瘍薬であるドセタキセル、カバジタキセルやアビラテロン、エンザルタミドなどの新規ホルモン療法薬が治療選択肢に加わっています。患者さんの治療成績に大きな影響を与える、これらの治療薬は適切な選択順や治療開始のタイミングは、十分に解明されているとは言えません。本研究では、転移性前立腺癌の患者さんを対象に、実際の治療内容とその治療成績を後方視的に検討することで、治療方針の最適化と将来的な治療方法の構築に貢献することを目的としています。

3．研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026 年 12 月 31 日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

患者背景（年齢、PSA 値、Gleason score、ECOG PS）
診断時の病期および画像所見（骨転移、内臓転移の有無）
初回治療内容
治療反応（PSA 低下率、画像的奏効率（画像診断による効果の確認））
治療期間、治療変更歴、副作用
全生存期間（OS）および無増悪生存期間（PFS）

５．外部への試料・情報の提供

本研究で取得した診療情報は研究責任者が個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等の個人を識別できる情報を削除し、研究用のＩＤを付与することで符号化します。符号化した診療情報は昭和医科大学病院、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学江東豊洲病院の外部から切り離されたコンピューター内にそれぞれ保存され、それぞれの施設から昭和医科大学医学部泌尿器科学講座へ研究者のみがアクセスできるオンラインストレージを通じて送付されます。

６．研究組織

研究責任者	昭和医科大学病院泌尿器科	氏名 深貝 隆志
-------	--------------	----------

７．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学医学部泌尿器科学講座	氏名：押野見 和彦
住所：東京都品川区旗の台 1-5-8	電話番号：03-3784-8560